

子育て支援センター「ぷっこ」だより

～☆☆明るく元気な子にそだちますように☆☆～

☎52-2315
子育て支援センター ☎090-5985-4339

いよいよ3月!! 「入学・進級」にわくわくし、「卒業・別れ」にちょっと寂しい気持ちになり、しかしその裏にはきっと感動の涙と新しい出会いが待っているでしょう。

子ども達にたくさん「おめでとう」を、言ってあげてほしいと思います。

☆親子遊びの広場～どんころ遠足☆

1月22日・29日の2日間にわたり、2グループに分かれ「どんころ遠足」を楽しんできました。最近の朝方の気温がマイナス20℃を下回る日が続き、気温や天候も心配されましたが、子ども達は深い新雪に寝転び雪の感触を楽しんだり、大人はスノーシューを履いて山道を歩いていきました。親子でソリ滑りを楽しみ、何度も雪山を登り楽しんでいる子もいました。その後はお母さんの手作りお弁当! まきストーブで焼きいもやマシュマロを焼きました。お腹もいっぱいになり、帰りのバスの中はスヤスヤ…♪親子で楽しいひと時を過ごすことができました。



☆0歳児・1歳児親子遊びの広場☆

1月15日の0歳児及び1歳児の親子遊びの広場では、13組の親子が集まりました。後半のサーキットあそびでは、フラフープや鉄棒にぶら下がったり、跳び箱の段差をよじ登ったりと身体を使って楽しみました。夏には寝ていた子が、今はハイハイやつかまり立ちをし、先月までハイハイをしていた子が、よちよち歩き、改めて子どもの成長に驚かされました。お母さんの手を引っ張りあちこちにチャレンジする姿がとても可愛らしく、たくさん笑顔がみられました。

保育所の元気な子どもたち

幾寅保育所

2月3日豆まき会は、年長組が手作りのかみしもを着て元気に豆をまきました。

可愛い子鬼たちの悪い鬼を退治して、元気に過ごせるようにと心をこめて豆をまきました。

鬼のお面も色々な表情で可愛い出来あがりでした。



金山保育所

2月1日 金山保育所の園庭で 雪中運動会が開かれました。追いかけて玉入れや、ボブスレー競技や宝探しと楽しみました。お父さんやお母さんと雪の中で楽しんでいる子どもたちは、寒さなど感じられないほど、いい笑顔で過ごしていました。



こんにちは
保健師です!
保健福祉課保健指導係
☎52-2211

子どもの予防接種!!



予防接種について

厚生労働省では、3月1日～7日までを子ども予防接種週間としています。入園・入学前で保護者の予防接種への関心を高める必要がある時期であることから、この時期に制定されています。

予防接種は感染すると怖い病気から子どもを守ってくれます。そのためにいつ何を受けるか、前もって正しい知識を身につけておきたいものです。

防げる病気は防いであげましょう

子どもがかかりやすい病気の中でもっとも多いのが「感染症」といわれるものです。世界中には、たくさんの感染症が存在します。ワクチンがないために年間に何万人という命を奪っている感染症も少なくありません。このような怖い病気から子どもを守るのが予防接種です。しかし、予防のためのワクチンが開発されているのは、以下のようなごくわずかです。予防接種をすることで、防ぐ方法がある病気と言ってもよいでしょう。

ワクチンで防げる主な病気（日本で子どもがワクチンを接種できる病気）

○定期接種：健康を守るため国が受けるよう勧めているもの。回数と接種期間が定められています。期間内であれば、無料で受けることができます。

ヒブ感染症	肺炎球菌感染症	ジフテリア	破傷風
百日せき	ポリオ	結核	麻疹(はしか)
風しん	日本脳炎(※北海道は接種指定外)	ヒトパピローマウイルス感染症	

○任意接種ですが、町で助成しているもの。

水ぼうそう	おたふくかぜ	インフルエンザ	ロタウイルス胃腸炎
-------	--------	---------	-----------

○任意接種ですが、町で助成していないもの。

B型肝炎

これらの病気は、かかると子どもたちの命にかかわる重大な病気のためワクチン接種が勧められています。現実に日本でも、毎年多くの人子どもも大人もワクチンで予防できるはずの病気に感染して苦しんだり、後遺症を持ったりしています。

病原体に対して免疫をつけ、感染症から子どもを守るためにも予防接種を受けることをお勧めします。

感染症から子どもを守ってあげましょう

日本では、欧米などに比べてたいへん多くの子どもたちが予防接種を受けずに感染症にかかり、健康を損ねたり、命を落としています。ひとつには、ワクチンの接種率が低いことが原因としてあげられます。もうひとつは、他の国では接種できても、日本では使用できないワクチンが多いためです。

医療大国の日本でも、予防接種制度は世界的にみるとたいへん遅れています。

予防接種を受けることは個人の選択になっていますが、怖い感染症から子どもを守るために最も確実な方法は予防接種しかありません。感染症で苦しむ子どもたちが減るように、保護者の方それぞれが、予防接種の効果と副反応をしっかりと理解し、医師と相談して納得のいく予防接種を受けましょう。

※予防接種によって受けられる年齢や回数が異なります。接種方法などは保健福祉課保健師までご相談ください。